



追加型投信/内外/複合資産

## 2022年5月 - 月次レポート

## 市場の動き

5月の海外株式相場は下落しました。米国では、4月の雇用統計で非農業部門雇用者数が前月比+42.8万人となり、市場予想を上回りました。また、4月の小売売上高は前月比+0.9%となり、4カ月連続のプラスとなりました。欧州では、ドイツの5月のIfo企業景況感指数が市場予想に反して2カ月連続の上昇となりました。一方、5月のユーロ圏総合購買担当者景気指数(PMI)速報値は前月から市場予想以上に低下しました。

こうした環境下、米国では、上旬から中旬にかけて、米連邦準備制度理事会(FRB)による積極的な金融引き締めへの警戒感やインフレによる企業収益圧迫への懸念等から下落し、その後、月末にかけてインフレ加速への過度な警戒感が和らいだこと等から上昇したものの、最終的に前月末を下回る水準で月を終えました。また、欧州も、上旬は欧州中央銀行(ECB)による早期利上げ観測や中国の景気減速懸念等から下落し、中旬以降は中国の景気刺激策への期待や、中国上海市でゼロコロナ政策に伴う行動規制緩和の方針が示されたこと、米国でインフレ加速への過度な警戒感が和らいだこと等から上昇したものの、最終的に前月末を下回る水準で月を終えました。

国内株式相場は上昇しました。上旬は、米国長期金利の上昇や中国の景気減速懸念、ウクライナ情勢等から下落したものの、中旬以降は米国の株式相場が上昇したことに加え、中国上海市でゼロコロナ政策に伴う行動規制緩和の方針が示されたこと等から上昇し、最終的に前月末を上回る水準で月を終えました。

海外債券相場は全体では下落しました。前月末に2.9%台前半であった米国10年物国債利回りは、上旬はFRBによる積極的な金融引き締めへの警戒感等から上昇したものの、その後、月末にかけてインフレ加速への過度な警戒感が和らいだこと等から低下し、最終的に2.8%台前半で月を終えました。前月末に0.9%台前半であったドイツ10年物国債利回りは、ECBによる早期利上げ観測に加え、5月のユーロ圏消費者物価指数(HICP)速報値が過去最高を更新したこと等から上昇し、最終的に1.1%台前半で月を終えました。

国内債券相場も下落しました。前月末に0.2%台前半であった10年物国債利回りは、日銀が指値オペを原則毎営業日に実施する方針を打ち出している影響等から狭いレンジでの動きとなり、最終的に0.2%台前半で月を終えました。

為替市場では、米ドルが米国でインフレ加速への過度な警戒感が和らぎ、長期金利が低下したこと等から売られる展開となった一方、ユーロはECBによる早期利上げ観測等から買われる展開となったことから、米ドル/円相場は0.7%の円高、ユーロ/円相場は0.8%の円安となりました。

## ライフポイント

ライフポイントは、投資者のみなさまの長期的な資産形成をお手伝いするために、世界の大手年金基金等が使用している分散投資アプローチを投資信託としてご提供するプログラムです。ラッセル・インベストメントの“マルチ・マネージャー・ファンド”を利用し、“マルチ・アセット(資産クラスの分散)、マルチ・スタイル(運用スタイルの分散)、マルチ・マネージャー(運用会社の分散)”という、3段階のリスク分散により、リスク・コントロールを可能にしたポートフォリオを投資者のみなさまにご提案致します。

## ラッセル・インベストメントグループ

ラッセル・インベストメントグループは、年金、金融機関および個人など様々な投資者のみなさまを対象に、グローバルに総合的な資産運用ソリューションを提供しています。

グローバルに行う運用会社調査をもとに、資産運用、オルタナティブ投資、確定拠出年金サービス、資産運用コンサルティング、売買執行管理など幅広く業務を行っており、現在当グループの運用資産総額は約40兆円※となっています。(※ 2022年3月末現在、為替換算レート: 121.37円/ドル。運用資産総額にはオーバーレイ運用を含みます。)

## ラッセル・インベストメント株式会社

これまでラッセル・インベストメントグループが世界で提供してきた“マルチ・マネージャー・ファンド”を日本で初めて設定・運用管理し、日本の投資者のみなさまにご提供致しております。





















